令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	東京都	学校名	台東区立柏葉中学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	中学１～３年生・特別の教科　道徳	時数等	９時間

目標・人権教育のねらい	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接することで、いじめを絶対に許さない強い意識をもち、偏見や差別のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。
実施した内容	・生活指導部（「いじめ」防止関係）や進路学習部（特別の教科 道徳 関係）、研究部（人権教育関係）とが連携し、「いじめ」に関する授業を行う。 ・その際、学校いじめ防止基本方針に基づき、「相互理解」や「思いやり、感謝」等の内容項目も取り入れ、よりよい人間関係の構築を図る。
工夫した点	・東京都人権擁護委員による「人権教室」を実施し、「災害に伴う人権問題」等、同世代の子供が抱える人権課題を考えたり、「リスペクトアザーズ」といった他者理解を重点的に考えたりし、人権意識の向上を図った。 ・道徳授業地区公開講座では、本校の人権教育研究主題を踏まえ、全校共通で内容項目「相互理解・寛容」に沿った教材を選択し、授業を行った。 ・道徳授業地区公開講座の協議会においてＰＴＡと連携し、「微表情観察」に関する講演会を専門家を招へいして行った。そこで、子供の言内外に込められる感情や気持ちを把握し、共感や自他理解力を大人が身に付けるための工夫や子供の問題行動等の萌芽に気付くことができるスキルを学んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・特別活動（学級活動）

事業成果	①　知識的側面：「いじめは重大な人権侵害であり、いじめは絶対に許されない行為であり、一人の人間として自他ともにかけがえのない存在であることを理解する。」 【生徒の変容】普段の学校生活における自己の言動を振り返り、中学生として責任ある言動について考える姿勢が見られた。 ②　価値的・態度的側面：「偏見や差別がなく、生徒一人一人が安全で安心して過ごすことができる学級づくりを目指した取組を考える。」 【生徒の変容】自分だけでなく、他者の考えや意見を理解しながら、よりよい人間関係の構築を主体的に考える姿勢が見られた。 ③　技能的側面：「自己実現に向けて自発的に考えるだけでなく、それらを互いに認め合い、課題解決に取り組む。」 【生徒の変容】人権作文や人権標語の作成・発表を通して、いじめのない学校、偏見や差別のない社会を共に実現させる意識が向上した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	東京都	学校名	台東区立柏葉中学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	中学２年生・総合的な学習の時間	時数等	５時間

目標・人権教育のねらい	障害についての正しい理解を深めるとともに、障害者の現状を考え、あらゆる人が住みやすい社会に参画し、その発展に寄与しようとする態度を育てる。
実施した内容	・調べ学習や体験活動などを通して、障害について正しい理解を深める。 ・障害者に対する偏見や差別意識をなくし、集団の一員として大切にしていくことについてグループごとにまとめ、発表する。
工夫した点	台東区福祉課と連携し、ＶＲ（仮想現実）を活用しながら発達障害のある人の困難性を体験したり、障害者に対する差別的な振る舞いについて考えたりすることで障害者に対する偏見や差別について理解を深め、その解消に向けてて自発的に考えることができるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・特別の教科　道徳「相互理解・寛容」等 ・特別活動（学校行事）「儀式的行事」等

事業成果

①　知識的側面：「障害者が普段の生活の中で抱える困り感を知り、現状について正しく理解することができる。」
【生徒の変容】体験活動を通して、困り感の一端を実感することで、障害者の立場や気持ちを尊重し、考える姿勢が見られた。

②　価値的・態度的側面：「障害の種類や程度等を踏まえながら、誰もが住みやすい社会を目指した取組を考えることができる。」
【生徒の変容】生徒会活動において、聴覚障害のある人に配慮し、手話を交えた「あいさつ運動」を提案するなど、具体的な取組を考える姿勢が見られた。

③　技能的側面：「障害者に対する偏見や差別解消に向けて自発的に考え、行動することができる。」
【生徒の変容】障害者だけでなく、まずは身近な学級・学年の生徒同士が互いの立場や気持ちを理解し、行動することが大切であるという意見が出された。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	東京都	学校名	台東区立柏葉中学校

人権課題	同和問題（部落差別）	対象学年・取り扱った教科等	中学３年生・総合的な学習の時間	時数等	１０時間

目標・人権教育のねらい	同和問題（部落差別）に関する歴史的背景を正しく理解するとともに、人権課題の解決に取り組もうとする態度を育てる。

実施した内容	・調べ学習や体験学習を通して、同和問題（部落差別）に関する正しい理解を深める。 ・それらを基に、偏見や差別がなく、互いに尊重しながらよりよい社会を実現することについてグループごとにまとめ、発表する。

工夫した点	・台東区産業研修センターと連携し、皮革産業に携わる人々の技術の高さを学ぶため、生徒が実際に革細工づくりを体験した。また、夏季休業日期間を利用し、担当教員が事前に革細工づくりを体験し、指導に生かした。 ・革細工づくりを体験する事前学習の一環として、東京都人権啓発センター専門員による講話を行い、同和問題（部落差別）に関する理解を深めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会（歴史的分野） ・特別の教科　道徳「公正、公平・社会正義」等

事業成果

①　知識的側面：「同和問題（部落差別）に関する歴史的背景や現状について正しく理解することができる。」
【生徒の変容】調べ学習や東京都人権啓発センター専門員による講話を聞くことで人権課題について理解を深め、その解決に向け考える姿勢が見られた。

②　価値的・態度的側面：「皮革産業の価値や意義について考え、職業に対する偏見や差別がない社会を実現しようとすることができる。」
【生徒の変容】体験活動を通して、皮革産業の技術の高さを知るとともに、地域に根付いた皮革産業を大切にする姿勢が見られた。

③　技能的側面：「同和問題（部落差別）による偏見や差別解消に向けて自発的に考え、行動することができる。」
【生徒の変容】長年、社会を支えてきた皮革産業を誇りに思うとともに、一つの意見や情報に左右されず、様々な視点から根拠をもって考えることが正しい理解や判断につながるという意見が出された。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	東京都	学校名	台東区立柏葉中学校

人権課題	アイヌの人々	対象学年・取り扱った教科等	中学１～３年生・社会	時数等	５時間

目標・人権教育のねらい	アイヌの人々の伝統や文化を正しく理解することで、その独自性を尊重し、継承していこうとする態度を育てる。
実施した内容	・地理的分野を通して、アイヌの人々の言語や文化について学ぶ。 ・歴史的分野を通して、アイヌの人々の生活様式や文化の侵害について学ぶ。 ・公民的分野を通して、アイヌの人々への人権問題の解消について学ぶ。
工夫した点	・地理的分野や歴史的分野で学んだ内容を生かし、公民的分野ではそれぞれで学んだ内容が関連し合っていることを留意し、更に高まり発展するよう指導した。 ・指導の際には、教科書だけでなく、「アイヌ民族：歴史と現在」等の冊子や動画資料を活用し、理解を深めさせた。 ・「アイヌ文化交流センター」で実施された台東区人権教育研修に参加し、研修での学びを指導に生かした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・総合的な学習の時間

事業成果

① 知識的側面：「アイヌの人々の伝統や文化について正しく理解することができる。」
【生徒の変容】北海道地方における地理的特色等にアイヌの人々の伝統や文化とのつながりが現在もあることを知り、それらを身近なものとして考える姿勢が見られた。

② 価値的・態度的側面：「アイヌの人々が築き上げたきた独自の生活様式や文化を侵害されてきた歴史から、偏見や差別を解消する取組を考えることができる。」
【生徒の変容】教科書だけでなく、関連資料を基に侵害された歴史を認識するとともに、アイヌの人々の伝統、文化の独自性や意義を正しく理解しようとする姿勢が見られた。

③ 技能的側面：「アイヌの人々の伝統や文化を継承する取組から、様々な人々が平等に生活する社会の実現に向けて自発的に考え、行動することができる。」
【生徒の変容】「アイヌ文化交流センター」の取組を知り、それらの活動に興味・関心をもち、関わろうとする姿勢が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	東京都	学校名	台東区立柏葉中学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	中学１年生・総合的な学習の時間	時数等	５時間

目標・人権教育のねらい	日本に住む外国人について理解を深めるとともに、外国人を取り巻く課題とその解決について考えようとする態度を育てる。
実施した内容	・調べ学習や体験学習を通して、日本に住む外国人について理解を深める。 ・日本に住む外国人の現状に気付くだけでなく、互いの人権を尊重し、課題解決についてグループごとにまとめ、発表する。
工夫した点	・東京都教育委員会「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」の「１５０か国以上の日本在住の外国人との交流を通した異文化理解プログラム」を活用し、様々な人や文化等に触れるとともに、日本に住む外国人について直接理解する機会を得た。 ・台東区教育委員会が展開する「English Summer School」や「中学生海外短期留学派遣」などのグローバル教育推進事業と関連させ、より外国人と交流する機会を増やす中で、人権課題解決に向けた意識の向上を図った。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会（公民的分野）　・外国語（英語） ・特別の教科　道徳「相互理解・寛容」等

事業成果	①　知識的側面：「日本に住む外国人を取り巻く課題を知ることで、現状について正しく理解することができる。」 【生徒の変容】調べ学習や体験活動を通して人権課題について理解を深め、その解決に向けて考える姿勢が見られた。 ②　価値的・態度的側面：「多様な人々と共生することのよさや責任を感じ、人権課題の解決を目指した取組を考えることができる。」 【生徒の変容】体験活動を通して、身近にある人権課題であると実感し、「自分ごと」として主体的に考える姿勢が見られた。 ③　技能的側面：「地域の特色等を生かしながら、人権課題の解決に向けて自発的に考え、行動することができる。」 【生徒の変容】台東区には、日本を代表する伝統文化が多いため、外国人と接する機会が多いという特色を生かし、私たちが主体的に取り組む必要があるという意見が出された。